

平成30年度 日本大学国際関係学部

上期 市民公開講座

期 日：平成30年5月30日(水)～6月27日(水)

時 間：18時15分～19時45分 注) 開始時間が変更となりますのでご注意ください。

会 場：日本大学国際関係学部山田顕義ホール（国際関係学部三島駅北口校舎）

統一テーマ

近代日本の夜明けと世界 — 明治維新150年

第1回

葦山代官江川英龍の海防と農兵制度の建議

5月30日(水) ● 公益財団法人江川文庫 学芸員 橋本敬之

第2回

幕末における日米交流関係の成立

6月6日(水) ● 日本大学国際関係学部 教授 濱屋雅軌

第3回

岩倉使節団とその背景

6月13日(水) ● 日本大学短期大学部 教授 佐藤聡彦

第4回

明治日本における近代軍隊の創設

6月20日(水) ● 日本大学国際関係学部 教授 淺川道夫

第5回

明治日本の総決算・日露戦争

6月27日(水) ● 日本大学国際関係学部 特任教授 吉本隆昭

主催：日本大学国際関係学部
日本大学短期大学部(三島校舎)

後援：三島市・三島市教育委員会
裾野市教育委員会、清水町教育委員会
長泉町教育委員会、函南町教育委員会
平成30年度しずおか県民カレッジ連携講座(前期)

平成 30 年度 日本大学国際関係学部
上期 市民公開講座申込要項

1 申込資格：どなたでも参加できます。

2 会場：

定員 400名
日本大学国際関係学部山田顕義ホール (<u>国際関係学部三島駅北口校舎</u>) J R 三島駅北口前

3 申込方法：別紙の「申込書」に必要事項をご記入の上、郵送またはFAXでお申し込みください。
あて先 〒411-8555 三島市文教町2丁目31番145号
日本大学国際関係学部研究事務課 市民公開講座係
FAX 055-980-0879

※「申込書」に記載の個人情報とは適切な方法で管理します。本講座に限定使用し、第3者には開示・提供いたしません。

4 問い合わせ先：日本大学国際関係学部 研究事務課
TEL 055-980-0808

5 申込期日：各開講日の2日前まで

6 受講料：無料

7 注意事項：(1) 講師の病気、その他やむを得ない事情により、講座を延期または中止することがあります。
(2) 受講許可の連絡は特にいたしません。申し込みの定員を超えた場合は、お断りする場合があります。
(3) 万一の場合（休講など）の連絡に支障をきたすことがありますので、「申込書」に、住所・電話番号は必ずご記入願います。
(4) 本校では車・バイクの乗り入れはできません。徒歩または電車・バス等の公共交通機関をご利用ください。



会場 日本大学国際関係学部三島駅北口校舎

平成30年度 上期市民公開講座のご案内

統一テーマ「近代日本の夜明けと世界—明治維新150年」

長い間鎖国を続けてきた徳川幕府は、黒船来航を機に開港、通商へと政策を転換します。開国はやがて尊王攘夷や討幕運動へとつながり、幕府の体制が次第に弱体化、大政奉還により江戸時代は幕を閉じることとなります。明治の世の中になってもしばらくは混乱が続きますが、欧米諸国から様々な制度や技術、知識などを吸収することにより、日本は近代国家として急速に発展していきます。

今回の講座では、近代日本の夜明けに焦点をあて、幕末から明治維新を経て日露戦争に勝利するまでの間、アジアの小国が諸外国と関係を結び交流していくことで世界の列強に肩を並べるまでに至ったのかを講演いたします。

ご家族、ご友人をお誘いあわせのうえお出かけください。多くの皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

第1回 5月30日(水) 蕪山代官江川英龍の海防と農兵制度の建議

橋本敬之

蕪山反射炉、台場を築造した蕪山代官江川英龍は、海防関係の建議を幕府にすることで、鎖国していた日本が欧米から侵略されることを回避しようとした。下田へイギリス船マリナー号が来航したとき、海防にあたる諸大名がいかに無力かを思い知らされ、農兵制度の建議を行った。直轄地で対応するための直属の軍隊の必要性を説いた。ロシア船ディアナ号の覆没によりヘダ号建造を命じられるが、欧米の進んだ技術をどのように盗み取るかを腐心した。そのため、君沢形・蕪山形船の建造へと移行する。ヘダ号を建造することより、技術導入をいかにするかということを考えていた。農兵が発展して日本の近代陸軍の基礎をつくり、ヘダ号建造から君沢形・蕪山形船の建造により近代造船の基礎を固めたのである。

第2回 6月6日(水) 幕末における日米交流関係の成立

濱屋雅軌

幕末に日米交流関係が成立した背景には、アヘン戦争情報を得た幕府による薪水給与令と海防強化令の体制の構築があった。また、関係成立の構造として、アメリカの目的と日本の事情があった。さらに成立の過程としては、ビッドル、ペリー、ハリスと幕府の交流があった。前者の二つでは、アメリカの直接の、後者では間接的な脅迫があった。この関係成立を歴史的に位置づけると、日本占領による新たな日米交流関係成立と類似している。

第3回 6月13日(水) 岩倉使節団とその背景

佐藤 聡彦

明治3年に西洋諸国の視察に出た新政府の要人たちは、政治と行政のモデルを探すため、諸外国の制度調査とその吸収を試みた。この講演では、場当たりのにも見える使節団の文化受容の様相が、徳川時代より継続した形態であるという仮説を提示し、それを検証しながら、明治改元後も続く混乱の真直中に、なぜ政権を二分してまで行く必要があったのかについて整理する。

第4回 6月20日(水) 明治日本における近代軍隊の創設

浅川 道夫

日本における近代国家建設は、明治維新を契機に歩みをはじめることとなるが、発足当初の新政府がまず直面したのは、残存する封建制の克服と、それに伴う国家主権の統合という政治課題であった。同時に、統治組織を成立させる実力的要素としての軍隊についても、国家的な位相での一元化と近代的組織への質的転換が急がれることとなった。

今回の講座では、「武士団から強力な国民的軍隊へと……急に数世紀も飛び進」んだと評される（ジョルジュ・カステラン『軍隊の歴史』）明治前期の日本軍について、その生成・確立の流れを跡づけたい。

第5回 6月27日(水) 明治日本の総決算・日露戦争

吉本 隆昭

開国、明治維新から、近代化と不平等条約改定を目指した明治日本は、日露戦争の勝利によって、その目的を達成して世界の一等国の仲間入りをしたが、国力が10倍のロシア帝国との戦いは周到な準備と戦略によって開戦したものの、一か八かの大博打であり、いくつかの僥倖もあって、かろうじて達成されたものであった。そこで、今回の講座では、その戦いがどのようなものであったか、陸戦を中心に新史料による最新の研究成果と現地での調査も含めて明らかにする。

平成30年度 上期 市民公開講座申込書

日本大学国際関係学部
日本大学短期大学部(三島校舎)

1 氏名 ふりがな _____ 年齢 _____ 歳 (男・女)

2 住所 〒 _____

3 電話番号 _____

4 職業 (該当箇所に○をしてください)

会社員・教員・公務員等・自営業・主婦・学生・無職・その他()

5 受講回数 (希望する欄に○をしてください)

第1回 5月30日(水)	第2回 6月6日(水)	第3回 6月13日(水)	第4回 6月20日(水)	第5回 6月27日(水)

注) 開始時間が変更となり、18時15分からですのでご注意ください。

6 しずおか県民カレッジ (該当箇所に○をしてください)

受講している ・ 受講していない

7 交通手段 (本校では車・バイクの乗り入れはできません。
徒歩または電車・バス等の公共交通機関をご利用下さい。)

J R 伊豆箱根鉄道 バス 徒歩